

歴史と 未来の 通り道

総社商店街に、活気とにぎわいを生み出そうとする思い。歴史ある街並みを、現代の感覚で未来に引き継いでいこうという取り組み。総社商店街に寄せるそれぞれの思いや取り組みが、今日までの歴史を未来へと引き継いで行きます。



総社宮の秋季大祭と合わせて開催されている総社商工まつり。今年は何とろーど'05と同日開催となり、例年より多くの市民や街行く人々でにぎわいました。市内各地区の子供みこしや山車(だし)の華麗なまつり行列は、総社宮からJR総社駅まで総社商店街を練り歩き、子供たちのかわいらしい掛け声や歓声で活気付きました。今年で36回を迎えるこのまつりは、総社の街ににぎわいをつくり出して、子供たちに、生まれ育ったふるさと



れとろーど'05で美術品が展示された商店の前を通るまつりの行列

の思い出をつくってもらおうと毎年開催されています。



次の世代に残す街づくりを進めようと、総社商店街の住民自らが、総社商店街地区街づくり協定を結んでいます。この協定は、地域住民や商店街を訪れる人たちに、憩いと潤いのある環境を作り出し、商店街を活性化しようという思いから結ばれました。古い街並みの雰囲気を活かした、統一のとれた景観作りを行った、家の建替えなどの際には、道路の境界から2メートル後退するなどの基本方針を定めています。今回開催されたれとろーど'05でも、新たに生み出されたスペースを活かし



まちづくり協定に基づいて建て替えられた家屋に展示された彫刻作品

て、生け花や彫刻の展示などが行われ、大勢の人たちの目を楽しませてくれました。
古い街並みや伝統を引き継いでいくこと。そこに暮らす人たちが暮らしやすいように、歴史を尊重しながら新しいものに変えていくこと。どちらも大切なことですが、その考え方は人によって様々です。しかし、総社商店街のことを真剣に考えて、良い街にしていこうという思いは同じです。総社商店街で長年過ごしたことのある武入公子さんは、今までの歴史と、現代の中に古いものを併せもつという調和の大切さを、詩(次頁)にしたためました。こうした人々の思いを一つにして、活気とにぎわいを呼び戻し、歴史ある商店街を未来に伝えていくことが必要です。そのためには、自ら総社商店街を創造していくことが求められているのではないのでしょうか。

降る雨に 商店街の思い出



雨にぬれた洋館は、一層レトロな雰囲気をかもし出しました

れとろーど'05で、書や絵画などを展示した詩人の井奥行彦さんは、総社商店街の懐かしい思い出を、次のように語ってくれました。

れとろーど'05が開催された初日は雨が降っていました。雨にぬれて、しっとりとした表情を見せた街並みや道路は、総社商店街に一層の味わいを醸し出してくれていたと思います。まさに「レトロ」が似合う街でした。そして、ふと私が教員としてこの町筋をオートバイで通勤していたころのことを思い起こさせてくれました。

ある雨の日の下校時、自転車で通学していた教え子の女の子が、私の着ていた雨ガッパを見て気に入ったらしく「このガッパ、どこで買われたんですか」と聞いてきました。
ある雨の日の下校時、自転車で通学してききました。そこで私は、商店街にある1軒の商店を教えてあげました。私は確かにその店でガッパを買ったと記憶していたのです。教え子は早速その商店を訪ねました。しかし、その店にはあいにく私と同じガッパは置いてなかったという事です。後からその話を聞いた私は、その子に大層悪いことをしたなあと思ったことを、昨日のことのように思い出しました。

総社商店街には、美意識あふれるしゃれた感じの洋館や、歴史を感じるすばらしい建物が今なお残っています。これは今回の催しに参加して初めて気が付きました。こうした街並みは一朝一夕には作り出せません。そして、私の心の中にも総社商店街の思い出がたくさん残っています。総社商店街に、再び昔のような活気が戻ってくれることを願ってやみません。



総社商店街の六枚橋小公園を少し南に入ったところにある三地藏

道みち

いちど過ぎ去った季節はもう同じにはやっこないはずなのに

今年の若葉も

あの年のあの日のみどりそっくりそのまま

揺らいではいのちを語っている

路地をゆく通園通学のこともちち丸い頬(ほお)からめいめいに発する声が散る
タッタッタッタ
ほずんだ足音がこだまして

きつちり並立した家々の谷間高いなまこ壁の下を急ぐこどもたちはにかなで手を振りすれ違った朝あれから 三十数年もの時が走った

長方形の天窓のような空から格別に切り取った光が降りる細道三鉢(た)の地蔵はやはり佇(た)ちつづけている
きよう 赤いよだれかけの端がすこし翻った過去から現代へのつながり石仏からの合図に思えた

武入公子